

自然の中で楽しく学ぶ

ボランティアキャンプ

野外活動を通じて、子どもたちに自主性を高めてもらおうと、8月21・22日、鵜の池キャンプ場で、ボランティアキャンプが行われました。今年は、子どもと大人合わせて21人が参加。自炊、清掃活動、キャンプファイヤーなどの野外活動を体験しました。子どもたちは、大人から



積極的にゴミを拾う子どもたち

カマの作り方や飯ごう炊飯の仕方などを教わるとさっそく挑戦していました。清掃活動では、一人ひとりが周辺のゴミ拾いに汗を流し、環境美化についても認識を深めました。

初めて飯ごう炊飯に挑戦した吉田真梧さん（根雨・8歳）は「自分で炊いたご飯は甘くておいしい」と満足そうに昼食のカレーといっしょに食べていました。



火を調節しながらカマドにたき木をくべる

ふるさとの夏に歓声がわく

黒坂カワコ公園で「魚とのふれあい交流」

ふるさとに帰省した人たちに自然と触れ合ってもらおうと、8月14日、魚とのふれあい交流が、黒坂カワコふれあい公園で開かれました。

盆恒例となった催しには、帰省客など約200人が参加。公園内にある池には、アユ、ウナ

ギ、ニジマス合わせて1800匹が放されました。子どもたちは、開始の合図とともに一斉に池の中に入り、ひざまでつかりながら夢中になって魚を追いかけてました。

この日、催しに参加した井原里奈さん（板井原・8歳）は、

家庭・地域が本人に気楽な環境を

こころの健康啓発セミナー「社会的ひきこもりの理解」

最近、社会的問題になってい

るひきこもりについて理解を深めてもらおうと、8月30日、こころの健康啓発セミナー（日野保健所主催）が町文化センター



「家庭・地域のつながりが大切」と原田さん

で開かれました。

講師の県立精神保健福祉センター所長原田豊さんは、各年代ごとのひきこもりケースを説明し「社会的ひきこもりは、病気が背景にないひきこもりのこと。特に10代後半から20歳代の社会人が多い。ひきこもっている本人は、なまけているのではなく、対人関係に恐怖・不安感を抱き苦しんでいます。本人の気持ちに前を向くまで辛抱強く待つことが大事。周囲は変に意識することなく、ふだん通りに接することが大切です」と来場者に理解と協力を求めました。

ウナギやアユを次々に捕まえ「びしょ濡れになったけど楽しかったです。岩の間に逃げるので捕まえるのに苦労しました」と笑顔で話していました。

帰省した人たちは「生きた魚に触れる機会なんてめったにないことです。いい思い出になりました」などとふるさとの夏を満喫していました。



池の中で夢中になって魚を追いかける